

廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成27年10月

広島県廿日市市

目 次

第1章 総論	1
1 趣旨	1
(1) 我がまちの特性と策定に向けて	1
(2) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」	2
(3) 本市の現況 ～人口減少問題～	3
2 総合戦略の構成と策定体制	3
(1) 総合戦略の対象期間	3
(2) 総合戦略策定にあたっての3つの考え方	3
(3) 策定体制	4
(4) 検討会議	4
3 総合戦略推進に当たっての体制とマネジメント	5
(1) 推進体制	5
(2) 推進に当たってのマネジメント	5
第2章 基本的な考え方	6
1 まちづくりの基本的理念とめざすまちの姿	6
2 まち・ひと・しごとの創生と好循環	6
(1) 大切にする視点	6
(2) めざすべき将来の方向	7
3 人口の将来展望	9
第3章 今後の施策の方向	11
【総合戦略の基本目標】	
基本目標1	12
はつかいちの「産業」はニュースにあふれている!!!	
～そこ！に着目するはつかいち～	
基本目標2	17
住みたくなる！ちょうどいいまち～そこ！そこ！！のはつかいち～	
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち	

基本目標3	19
-------	----

子育て世代に選ばれ続ける「そこ！」が大事
子どもたち、みんな“はつかいちの子”～みんなで子育て～

基本目標4	22
-------	----

「そこ！」が好き」はつかいち～はつかいちの心を育む～

女性の視点	25
-------	----

「あなたのそこ！」がすてき」ウーマンライフはつかいち

第4章 「対話」を通じた総合戦略の検討..... 27

～廿日市市総合戦略検討会議報告～

参考資料

廿日市市総合戦略検討会議設置要綱	38
------------------	----

廿日市市総合戦略検討会議委員名簿	39
------------------	----

第 1 章 総論

1 趣旨

(1) 我がまちの特性と策定に向けて

本市は、瀬戸内海から西中国山地へと広がる雄大な自然に恵まれたまちです。また、沿岸部・内陸部・山間部・島しょ部から構成され多様な地域資源を有しており、このことから、「日本の縮図」「広島県の縮図」と例えられます。

【沿岸部】

沿岸部には人口・産業・都市機能が集積し、鉄道・道路網により主要都市との交通環境が整っています。

【内陸部】

内陸部は都市との近接性があり、自然資源や歴史資源、スポーツ施設、観光農園等の交流資源に恵まれています。

【山間部】

山間部は中国縦貫自動車道のインターチェンジがあり、また、西中国山地国立公園に指定される自然資源、スキー場や県立公園等の交流資源があります。

【島しょ部】

島しょ部は瀬戸内海国立公園に指定され、世界遺産「厳島神社」や瀨山原始林、ラムサール条約湿地などがあり、文化・自然資源にあふれています。

本市は、このような多様な地域資源をいかしながら、市民一人ひとりが幸せに住み続けるために、自然豊かな山間部等と都市部とが共生する都市をめざすべきと考えています。

一方で、我が国全体において、年々生産年齢人口が減少しており、このことは、本市においても喫緊の課題です。このため、人口減少克服と地域の活性化に向け、全市的に取り組んでいくこととし、素晴らしい地域資源や環境を次世代につなぐとともに、将来にわたって活力あるまちにするため、多くの方と力を合わせ「廿日市市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」を策定しました。

(2) 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

我が国の人口は、2008（H20）年をピークに、減少局面に入っており、2060（H72）年には、8,700 万人程度にまで減少すると想定されています。また、地方と東京圏の経済格差がさらに拡大しており、若い世代の東京圏への集中は増加の一途を辿っています。国は、このような東京一極集中の是正と、地方創生を目的として、2014（H26）年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。また、同年 12 月には、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、将来にわたり、活力ある日本社会を創り、維持していくことをめざしています。

▶長期人口ビジョンの目指すべき将来の方向

人口減少克服と地方創生をあわせて行うことで、将来にわたり活力ある日本社会を維持することを目指す。

- ① 若い世代の希望が実現すると、出生率は 1.8 程度に向上する。
- ② 人口減少に歯止めがかかると、2060 年に 1 億人程度の人口が確保される。
- ③ 人口構造が「若返る時期」を迎える。
- ④ 「人口の安定化」と「生産性の向上」が図られると、2050 年代に実質 GDP 成長率は 1.5～2%程度に維持される。

▶総合戦略の基本的な考え方

- ① 人口減少と地域経済縮小の克服
- ② まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立
「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。
 - 基本目標 1 地方における安定した雇用を創出する
 - 基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる
 - 基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - 基本目標 4 時代にあった地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

【人口問題に対する基本認識】

●人口減少問題

人口減少は、消費の縮小や、様々な分野での人手不足を招くこととなり、事業の縮小などから地域経済へも大きな影響を及ぼすことが懸念されている。

●東京一極集中問題

若者の東京圏への人口流入は、大学進学や就職が主な要因となっており、過密で出生率が低い大都市に若者が集中することが、日本全体の少子化、人口減少に繋がっていると考えられている。

(3) 本市の現況 ～人口減少問題～

本市の総人口は、2005(H17)年に115,530人でピーク(国勢調査)を迎えた後、減少に転じています。特に、内陸部や山間部、島しょ部、団地などの地域では、人口減少・少子高齢化が進行しており、沿岸部が一定のダムの機能を発揮していますが、総人口の減少を食い止めるには至らず、このまま推移すれば、2040(H52)年の時点で、89,410人(国立社会保障・人口問題研究所推計)まで減少すると推計されます。

●人口減少問題がもたらす本市への影響として想定されること

・直接的影響

- 経済規模の縮小
- 地域自治組織の縮小
- 労働者(人材)の減少
- 事業者の撤退等
- 税収の低下
- 社会保障関係経費の一層の増加

など

・間接的影響

- 公共施設等の維持管理・更新等の問題
- 空き家の増加
- 生活サービスの低下

など

2 総合戦略の構成と策定体制

(1) 総合戦略の対象期間

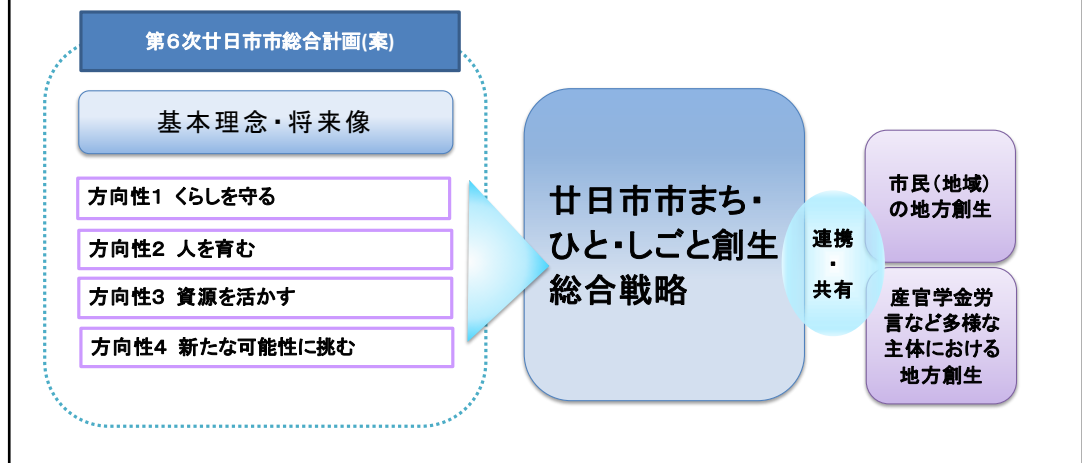
2015(H27)年度から2019(H31)年度までの5年間を対象期間とします。

(2) 総合戦略策定にあたっての3つの考え方

総合戦略は、人口減少克服と地域の活性化という課題に、一層の危機感を持って取り組むべき重要な施策であり、「第6次廿日市市総合計画(案)(10月末現在策定中)」を踏まえ、次の3つの点を念頭に策定することとしました。

- (ア) 行政のみならず市民をはじめ産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア(産官学金労言)と危機意識の共有に努める。
- (イ) 地域にある多様な資源や魅力をしっかりといかす。
- (ウ) 個々の主体の行動に加え、多様な主体が連携し実効性をより高め、新たな発想で取り組む。

第6次総合計画と総合戦略の関係



(3) 策定体制

総合戦略策定にあたっての3つの考え方を踏まえ、市民の思いを受け止め、行政のみならず、「甘日市市の創生」に市全体で取り組んでいくため、地域で活躍されている人や産官学金労の専門分野の委員で構成する甘日市市総合戦略検討会議（以下「検討会議」という。）を設置しました。

(4) 検討会議

甘日市市の未来や、日頃から感じていることについての意見交換から導き出された「子育て、しごと、まなび」などのテーマに沿って、より深く意見交換していく中で、子育てへのまち全体での支援や体験事業の必要性、女性の視点など、総合戦略を策定する上で必要な視点やアイデアをいただきました。

また、甘日市市をより良いまちにしていきたいという思いを、市民と共有し、行動につなげていくために、この検討会議で出された言葉や視点を大切にしながら、総合戦略を策定しました。

※検討会議での検討の経過は27ページ以降に掲載。

3 総合戦略推進に当たっての体制とマネジメント

(1) 推進体制

総合戦略を推進するに当たっては、市民、多様な団体、地域を支える全ての人々と行政が共に創り、連携し、自ら行動することが重要です。

総合戦略の効果検証に際しては、その妥当性・客観性を担保するため、検討会議を活用し、外部有識者の参画を得ることとしています。

(2) 推進に当たってのマネジメント

本市では、事業の推進にあたり、PDCA サイクル「Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）」により、マネジメントを行っています。総合戦略の推進に当たっても、目標を見据えたより実効性のある事業実施とするため、KPI（重要業績評価指標）※を設定し、進捗状況を確認するとともに、適宜、見直しを行い施策を推進します。

※KPI（重要業績評価指標）・・・Key Performance Indicator の略称。
施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

第2章 基本的な考え方

1 まちづくりの基本的理念とめざすまちの姿

■まちづくりの基本的理念

「市民一人ひとりが幸せに暮らせるまちづくり」

■めざすまちの姿

「そこ！にしかない魅力と住みやすさを感じるまち・はつかいち」

市民一人ひとりが健康で、幸せに住み続けるために、本市の多様な魅力を十分に活用し、いつまでも住み続けたいと思える豊かな住みやすいまちをめざします。

2 まち・ひと・しごとの創生と好循環

(1) 大切にする視点

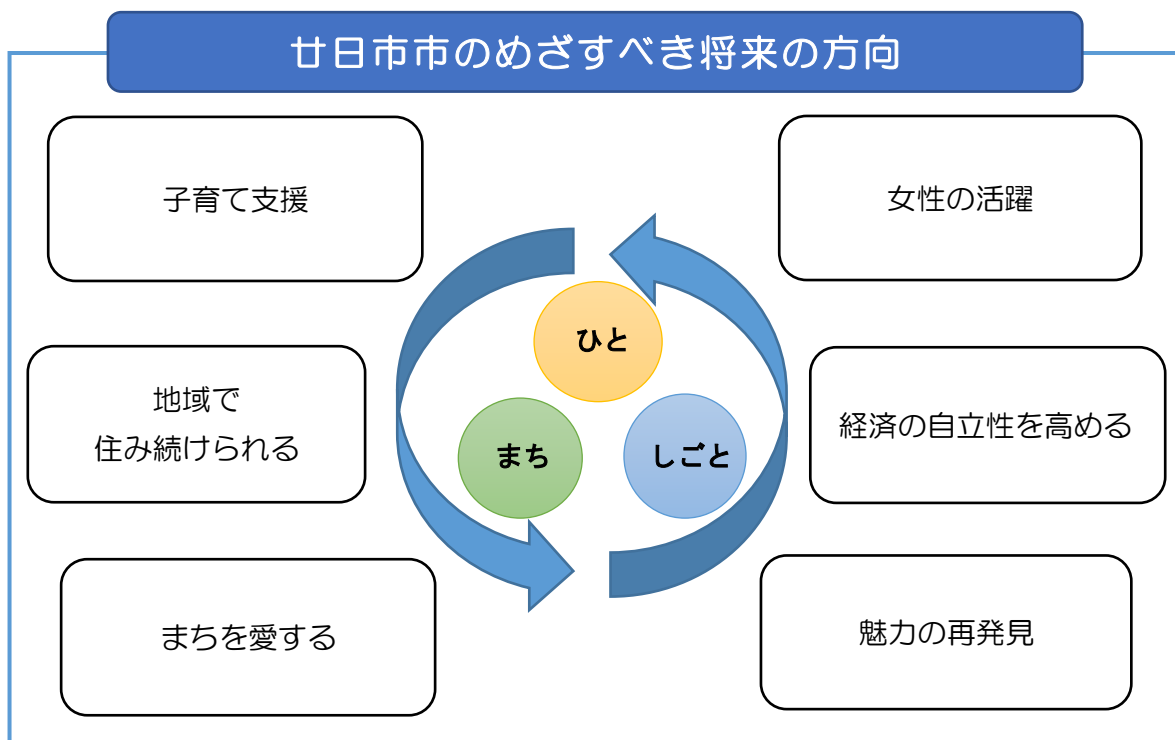
子どもはまちの宝です。これからもまち全体で子どもを育て、子育て家族が安心して暮らせるまちをつくることをめざします。

また、女性が暮らしやすく「このまちが好きだ。住み続けたい。」と思うまちにするため、女性の視点・感性をいかしたまちづくりをすすめ、全ての人が暮らしを楽しめ、子育てがしやすく、そして働きやすいまちをめざし、次の2つを大切にする視点としました。

- まち全体で子どもを育てる
- 女性の視点や感性をいかした誰もが住みやすいまち

(2) めざすべき将来の方向

人口減少に歯止めをかけるためには、今住んでいる市民、そして、今後住むこととなる未来の市民が、将来にわたって住み続けたいと思うようなまちづくりが必要です。



ア 子育て支援 ～子育て家族の暮らしやすいまち～

本市では、10歳代後半から20歳代において、進学や就職、結婚などを理由とした転出が他のどの年代よりも多い状況です。このため、転出の抑制や、本市出身の若者が、新たな家族と一緒に住み慣れた地域に戻り、次の世代を育てたいと思えるようなまちづくりを行うことが重要であり、子育て施策や特色のある教育を推進することが必要です。

イ 魅力の再発見

本市は、多様な地域特性をもち、豊かな地域資源、そして世界遺産があるという、他にはない財産も有しています。また、広島県西部の拠点としての都市機能を備え、広島市と隣接することから高次の都市機能も享受できるまちです。これらのことにより、「はつかいちらしい住みやすい暮らし」ができるという大きな強みを内外に発信し、魅力を改めて知ってもらうことが必要です。

ウ まちを愛する

住みやすさや愛着は、人間関係や体験によって育まれるものであり、人と人がつながり、支えあうまちづくりが必要です。また、都市との近接性をいかした生活スタイルの提案や、市外からの移住がしやすい環境づくりを行うことも必要です。

エ 地域で住み続けられる

人口減少は、各方面へ影響を及ぼしつつあり、生活サービスの縮小や空き家問題などが課題となっていることから、早急な対策が必要です。

また、本市の就業者数のうち、約半数が広島市等の市外に勤務しています（平成22年総務省「国勢調査」）。このため、生活圏や通勤などにおいて密接に関係する広島市を含む周辺自治体との広域連携による住民サービスの充実を図ることも必要です。

オ 経済の自立性を高める

ヒト、モノ、カネ、情報が循環する経済都市への成長・発展をめざし、近隣の都市や中山間地域、観光地等と連携した広域的な経済都市圏の確立に向けて挑戦することが必要です。

また、市内で就業を求める人の希望をかなえることができるよう、就労の場の創出はもとより、起業への支援や、多様な働き方の提案などを行っていくことが必要です。

カ 女性の活躍

女性が住みやすいまち、そして、子どもを安心して産み育てたいと思えるまちをめざし、女性ならではの感性をいかした取組への支援を行い、職場や地域で活躍しやすいよう応援することが必要です。

3 人口の将来展望

めざすべき将来の方向を踏まえ、将来の人口を次のとおり展望します。

■自然動態

○現状の出生率は 1.39（2008 年～2012 年）ですが、結婚・出産・子育てに関する施策を積極的・持続的に行うことにより、市民の希望出生率 1.83（結婚・出産・子育て、移住・定住に関する意識調査等から算出）が実現できる環境を整え、その結果として、2030 年に出生率 1.83、2040 年までに 2.07（人口置換水準）まで上昇すると想定します。

※「希望出生率」は「ストップ少子化・地方元気」（日本創成会議・人口減少問題検討分科会 平成 26 年 5 月 8 日）に基づき算出。⇒下記参照

※国の長期ビジョンでは、若い世代の希望が実現すると、出生率は 1.8 程度に向上するとされています。この数値は「希望出生率」に基づくものです。

※人口置換水準とは、人口が長期的に維持される水準（国立社会保障・人口問題研究所で算出）。

参考：希望出生率の算定

○「ストップ少子化・地方元気戦略」（日本創成会議・人口減少問題検討分科会）による、希望出生率の算出式を用いて、本市における希望出生率の算出。

・希望出生率＝〔（既婚者割合×夫婦の予定子ども数）＋（未婚者割合×未婚結婚希望割合×理想子ども数）〕
×離別等影響

○その結果、本市における希望出生率は「1.83」となります。

■社会動態

○近年、本市の社会動態は、社会減の傾向があるものの、環境変化による影響を受けやすく、継続して減少しているわけではないことから、転出超過の抑制施策に積極的に取り組むことで、2020 年までに転入と転出が均衡していくと想定します。

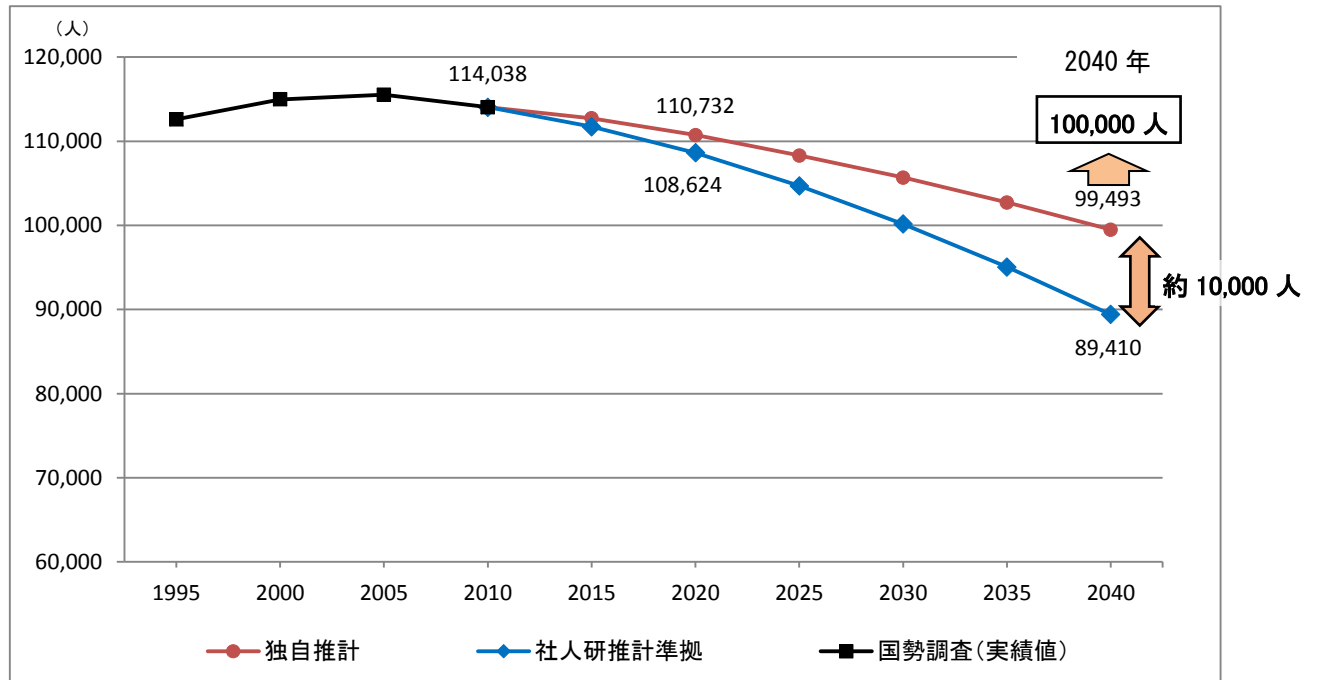


●人口の将来展望

以上の考え方に基くと、人口の将来展望は次のとおりです。

2040年 100,000人

図 人口の将来展望



独自推計：2015 年の推定人口を基準に、出生率が 2030 年に 1.83、2040 年に 2.07 まで上昇し、移動が 2020 年以降均衡とした場合。

注) 2015 年の推定人口は、2010 年国勢調査人口に 2010～2015 年における住民基本台帳での人口増減分を加算した値。

社人研推計：主に 2005 年から 2010 年の人口の動向を勘案しつつ、純移動率が 2015～2020 年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後はその値を一定とした場合。

第3章 今後の施策の方向

総合戦略の基本目標

基本目標 1

はつかいちの「産業」はニュースにあふれている!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

しごと

- (1) コレできる！新しい仕事のカタチ発掘
- (2) お宝ザクザクはつかいち
- (3) 拡散希望！見どころ満載はつかいち
- (4) 新たな「人・モノ・コト」を開拓する

基本目標 2

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！！のはつかいち～
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち

ひと

- (1) ウェルカムはつかいち
～暮らしを楽しむ魅力いっぱいのまち～

基本目標 3

子育て世代に選ばれ続ける 「そこ！」が大事
子どもたち、みんな“はつかいちの子”～みんなで子育て～

ひと

- (1) 子育ての不安を安心に変える
- (2) まち全体で子どもを育てる

基本目標 4

「そこ！」が好き」はつかいち ～はつかいちの心を育む～

まち

- (1) 市民が楽しむ市内旅行 ～はつかいちピクニック！～
- (2) はつかいち大好きっ子！を育てる
- (3) 住み続けたい！をかなえる

女性の視点

「あなたのそこ！」がすてき」ウーマンライフはつかいち

ひと

- (1) しなやかな感性をいかして活躍
- (2) 仕事とくらしの両立支援

基本目標 1

はつかいちの「産業」はニュースにあふれている!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

【めざす姿】

- ◎ 企業や人が新たな挑戦を行うことで、市内経済が活性化されるとともに、魅力ある働き方ができる環境が整っています。

【基本的方向】

- 地域資源を活用し、磨き上げ、域内における人やモノなどの好循環を図る。
- 成長市場への販路拡大や域外からの消費の呼び込みを図る。
- 人やモノ・情報の交流・循環を支える交通等産業基盤を整備する。
- 女性や若者の多様な働き方を支援する。
- シニアの経験・技術を活用した雇用の創出や次世代育成を図る。

数値目標	現状値 H26	目標値 H31
市内従業者数	39,944 人 (H24)	40,000 人 (H31)
創業支援事業計画を活用した市内創業者数	0 人	37 人
観光消費額	248 億円	286 億円

(1) コレできる！新しい仕事のカタチ発掘

① 仕事のカタチ発掘

- 起業や創業をめざす女性や若者の発掘と育成を行うとともに、起業しやすく、また、就業しやすい環境づくりを推進する。とりわけ、小商い、地域密着型ビジネスの起業・創業の支援、女性の学びなおし（リカレント教育）などの多様な機会の創出を行う。
- 長年培った経験やスキルを持つシニア人材の活躍が期待されており、就労や起業、就農等を支援する。
- 産学官が政策連携し、創業、事業承継など時代に合った多様な経営ニーズや地域特性に応じて、ワンストップでサポートする体制を整備する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
創業支援事業計画を活用した市内創業者数	0 人	37 人

H27 事業例	（仮称）地域創業・産業振興サポートセンター事業 地域密着型ビジネス支援事業 起業創業支援事業 雇用促進事業 男女共同参画推進事業
------------	--

（２） お宝ザクザクはつかいち

① 地域に密着した商いを応援する

- 多様な地域資源を活用して事業を展開する地元企業を支援する。
- 地域に密着した商店街等の再生や活性化を図ることで地域の賑わいを創出する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
地域産業資源の件数（累計）	19 件	35 件

H27 事業例	商店街等活性化事業 （仮称）地域創業・産業振興サポートセンター事業
------------	--------------------------------------

② 地域の魅力ある資源を活用

- 魅力ある農林水産物の付加価値を高め、生産者と消費者及び多様な事業者とのネットワークの創出により販路を開拓する。
- 安定的に生産物を供給するため生産体制を整備し、地域、家庭及び学校等における地産地消を推進する。
- 森を育むとともに、生産・加工・流通・販売・資源循環のイノベーションにより、市産材の事業量の安定化を図る。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
農産物（主要振興品目：ほうれんそう、こまつな）の生産量	96t	247t
水産物の陸揚量	17,411t	17,500t
木材生産量	12,055 m³	21,800 m³

H27 事業例	地産地消推進事業 けん玉普及促進事業 漁業経営力強化事業
------------	------------------------------------

③ 6次産業化のススメ

- 本市の近接性（都市、消費者、観光地）をいかしたご当地メニューや大学等と連携した新たな商品・サービスの開発を促進する。
- 食品製造業の集積をいかし、地元の農林水産業の担い手や食関連事業者、金融機関等が連携した開発、ビジネス創出活動を推進する。
- 生産者と加工業者、中間支援者をつなぐネットワークの構築を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
農商工等連携事業計画認定企業数（累計）	2 社	5 社

H27 事業例	新規ビジネス創出支援事業
------------	--------------

④ 担い手育成

- 地域産業の担い手の確保・育成を図るため、新規就農者や担い手グループを育成するとともに、伝統工芸の技能を承継する人材の確保を推進する。
- 関係機関と連携し、企業ニーズに沿った人材育成を促進するとともに、安定的な事業継承を支援する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
認定農業者数・認定新規就農者数	25 人	36 人
伝統工芸の技術後継者（宮島細工、けん玉など）	-	5 人 （累計）

H27 事業例	担い手経営基盤強化事業 新規農業経営者育成事業
------------	----------------------------

⑤ お宝情報発信

- 市ホームページ等多様な媒体を活用した市民等への情報発信や、市内経済団体等と連携した情報発信を推進する。また、様々な地域産業・資源についての情報発信を行い、市民が地域の特性に触れることができる環境を整備する。
- 地域資源をいかしたまちづくりや企業の公益活動など、多様な主体による地域貢献活動を市民目線で情報発信する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
市ホームページへのアクセス件数	794 万件	1,000 万件

H27 事業例	広報広聴事業 協働推進事業 商工業活性化ビジョン推進事業
------------	------------------------------------

（３） 拡散希望！見どころ満載はつかいち

① 観光客効果を市全域へ

- 宮島のブランド力を高め一流の観光拠点をめざすとともに、観光客の増加を市内全体に波及させ経済効果を高める。とりわけ、様々な観光交流事業の実施や宮島口地区環境整備による結節機能強化など基盤整備を推進する。
- 食事・食材、買物、地域の交流資源など、地域魅力３点セットの開発、磨き上げを推進するとともに、おもてなしの高度化を図る。
- 観光に関するマーケティング・マネジメント機能を強化し、より戦略的に観光客を呼び込むとともに、観光の総合産業化を図る。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
宮島地域への外国人観光客数	14 万人	21 万人
市内宿泊客数	56 万人	64 万人

H27 事業例	宮島口地区整備事業 観光誘客強化事業 観光資源ネットワーク化事業 観光おもてなし向上事業
------------	---

(4) 新たな「人・モノ・コト」を開拓する

① 人・モノ・情報の循環を生む基盤整備

- 人・モノ・情報が交流・循環しやすい環境づくりを行うため、地域拠点間や市内外を結ぶ臨港道路廿日市草津線などの幹線道路網等交通基盤や情報基盤など、産業基盤の整備を推進する。

H27 事業例	各種道路等整備事業 林道整備事業 小規模農業基盤整備事業
------------	------------------------------------

② 新たな販路拡大支援

- 関係機関と連携し、広島市等域外をはじめ、関西圏や東京圏、海外への販路開拓を支援する。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 H26	目標値 H31
市と支援機関が連携して実施したビジネスフェアへの参加企業数	-	100 社 (累計)

H27 事業例	新規ビジネス創出支援事業
------------	--------------

③ 新たな雇用の場を創出する高度な機能の集積

- 平良・佐方地区など新たな活力を創出し、都市の発展を牽引する可能性をもった地区について、社会情勢に応じた企業の誘致など、雇用の場の確保を含め、より付加価値の高い土地利用をめざす。

基本目標 2

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！！のはつかいち～
意外と知らない、住み続けたい魅力いっぱいのまち

【めざす姿】

- ◎ 大都市とは違う、本市の「ちょうど良い」暮らしやすさや、恵まれた自然、地域資源などの魅力が効果的に発信され、また、より住みやすいまちにしていこうと、「廿日市市が好きな人」が訪れ、移り住んでいます。

【基本的方向】

- 本市の暮らしやすさや各種情報の発信により、若者のU/Iターンを促進する。
- 恵まれた自然や都市との近接性をいかした魅力を発信し、交流人口の拡大を図る。

数値目標	現状値 H26	目標値 H31
社会動態	転出超過	転入超過

(1) ウェルカムはつかいち ～暮らしを楽しむ魅力いっぱいのまち～

① 都市との近接性をいかす

- 都市との近接性をいかし、各種イベントや体験事業を中心とした市外在住者の小旅行のほか、大学生等と地域の交流事業を推進することで、交流人口の増加に取り組む。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
体験型事業の実施数	-	10 件

H27 事業例	ひろしまの森づくり事業 はつかいち森林資源活用事業 シティプロモーション事業 広報広聴事業
------------	--

② 子育て世代を中心とした若者の移住・定住を促進する

- 子育て世代の移住・定住を進めるため、住まいに関係する民間事業者と連携した情報発信と、移住希望者に選ばれ住み続けてもらうための各種取組を推進する。
- 市外の学生等若者に、移住・定住に関心を持ってもらうため、シティプロモーション等の展開により本市の魅力を発信する。
- 移住・定住を促進するため、UJ ターン希望者への的確な情報提供を行う。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
20 歳から 49 歳の女性の人口の 5 年後の定着率 (2014 (H26) については、2009 年 (H21) と比較)	97%	99%

H27 事業例	定住推進事業 雇用促進事業 シティプロモーション事業 広報広聴事業
------------	--

基本目標 3

子育て世代に選ばれ続ける 「そこ！」が大事
子どもたち、みんな“はつかいちの子”～みんなで子育て～

【めざす姿】

- ◎ まち全体で子育てを応援する気運が醸成され、若い世代が安心して、子育ての夢と希望をかなえられるまちになっています。

【基本的方向】

- 結婚から子育てまで、一連のライフステージに応じた切れ目のない支援を行う。
- 地域のつながりや家族の支えにより、安心して子育てができる環境を整える。
- 仕事や活動などと生活の調和を図り、いきいきと生活できるよう支援する。
- 子どもたちの健やかな成長をまち全体で支える。

数値目標	現状値 H26	目標値 H31
ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業数 (一般事業主行動計画策定状況)	74 社	82 社

(1) 子育てが楽しくなるまちづくり

① 結婚・出産・子育て ～ライフステージに応じた支援～

- 結婚前から、妊娠・出産期、子育て期までのライフステージに応じた、切れ目のない支援を行い、誰もが安心して妊娠、出産、子育てができる環境づくりを推進する。
- 安心して出産・子育てできるよう、妊婦健診等への支援、子どもの頃からの心と体の健全な育成、多子世帯への各種支援を推進する。
- 子育てが楽しくなるよう、子育て支援サービスの充実を図る。とりわけ、子育て支援センターの設置、子育て世代のつながりの場の創出を推進する。
- 子育ての不安を安心に変えるため、子育て世代の親支援を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
出会いの場への参加者数（延べ人数）	31 人	400 人
4 ヶ月児健康診査受診率	89.4%	100%
子育てサポーター養成講座受講者数（延べ人数）	619 人	900 人
子育て応援プログラム教室に参加してストレス度が下がった人の割合	80%	100%

H27 事業例	男女共同参画推進事業 母子保健事業 子育て支援センター管理運営事業 児童福祉一般事業
------------	---

（２） まち全体で子どもを育てる

① 子育てしやすいまちに向けた人づくり

- 子育てしやすいまちに向けた人づくりの基礎となる、仕事などの活動と子育てなどの生活をバランスよく充実する「ワーク・ライフ・バランス」の実現を図るため、取り組む企業などへの支援や市内経済団体との連携を促進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
イクメン企業同盟ひろしま加入企業数	2 社	8 社

H27 事業例	男女共同参画推進事業
------------	------------

② まち全体での子育て応援

- 女性の視点を重視しながら、まち全体で子育てを応援し、保育環境の充実や、子どもと一緒に出かけやすい環境を整備する。
- 親元近居・同居の推進など家庭や地域で安心して出産・子育てできるよう、子育てしやすいまちづくりを推進する。
- 貧困が世代を超えて連鎖していくことを断ち切るため、子どもの貧困対策を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
イベント等での子育てコーナー（授乳おむつ替えスペース）の設置回数	-	20 回
学校支援地域本部の設置数	12	17

H27 事業例	保育園整備事業 保育園管理運営事業 児童会管理運営事業 学校支援地域本部事業 公園整備事業 子ども通学路安全対策事業 歩道整備事業
------------	---

③ 次世代を見据えた特色ある教育

- 子どもの個性と可能性を引き出す特色ある教育を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
「基礎・基本」定着状況調査における実技調査の正答率	87.7%	90.0%
ICT を活用した授業を実施している教師の割合	小 63.7% 中 61.8%	小 70.0% 中 65.0%

H27 事業例	国際理解教育事業 学校給食管理運営事業 スポーツ振興事業
------------	------------------------------------

基本目標 4

「そこ！が好き」はつかいち
～はつかいちの心を育む～

【めざす姿】

- ◎ 人と人、地域と地域がつながり、我がまちへの愛着と誇りが育まれているとともに、安心して住み続けられるまちになっています。

【基本的方向】

- 市民がふるさとに愛着を持てるような取組を行う。
- 人口減少・少子高齢化が進む地域において、交通環境の整備などで生活サービスを確保する。
- 持続可能な地域自治が行われるよう支援する。
- 社会情勢の変化に対応した効率的・効果的なまちづくりを行う。

数値目標	現状値 H26	目標値 H31
まちに愛着があると答える人の割合	81.9%	85%

（１） 市民が楽しむ市内旅行 ～はつかいちピクニック！～

① 観る・食べる・動く体験

- 市内旅行ともいえる「観る・食べる・動く体験」を通じて、市民が暮らしを楽しむことができ、我がまちに住み続けたいと思えるよう、魅力の再認識、まちへの愛着と誇りの醸成を図り、多様な「体験」ができるまちづくりを推進する。
- 多様な媒体を介し、市内情報を市民向けに発信するとともに、市民の市内旅行を促進し、地域の魅力を発信する。

H27 事業例	観光資源ネットワーク化事業
------------	---------------

（２） はつかいち大好きっ子！を育てる

① ふるさとに愛着や誇りを持つ子を育てる

- 受け継がれてきた郷土の歴史や文化を学ぶことで、子ども達がふるさとに愛着と誇りを持てるよう育くむ。

- 自然をはじめとする、本市ならではの地域資源を活用し、多様な体験を行うことができる環境を整備する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
地域教材を活用した授業実施率	－	100%

H27 事業例	文化財保存・保護事業 環境都市創造事業
------------	------------------------

（３） 住み続けたい！をかなえる

① 持続可能な地域づくり

- 市民がそれぞれの地域で暮らし続けていきたいという希望をかなえるため、一定の生活サービスの確保に努める。
- 中山間地域や住宅団地などの交通不便地区において、地域の実態に応じた移動手段の確保を図るとともに、民間路線及び市自主運行を含めたバス交通の全体再編、交通モード間の乗継ぎ利便性向上に向けた待合環境の整備やダイヤ調整等を推進する。
- 空き店舗、空き家、空き地等の多様な活用と対応策を検討する。
- 良質な市営住宅の提供を確保するため、老朽化した市営住宅の集約を伴う建替えや長寿命化工事を推進する。
- 持続可能な地域づくりをめざし、機能を集約した拠点づくりに向けて緩やかな誘導を図るとともに、公共施設マネジメントによる公共施設の再編に向けた検討を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
住みやすいと思う人の割合	70.1%	75.0%
市単独補助路線及び自主運行バスの利用者数	36.8万人	39.5万人

H27 事業例	バス路線維持補助金 自主運行バス運営事業 地域公共交通再編事業 地域支援員推進事業 賑わい施設整備事業 商店街等活性化事業
------------	--

② 安心して暮らせるまちをつくる

- 日常的な生活課題を解決することや地域における自治活動を多様な主体との協働により支えることができるよう、地域づくりを考え、話し合い、学び合う場を定着させるとともに、解決に向けた実践を支援する。
- 地域の福祉力を高めるため、地域住民一人ひとりが担い手の意識を持ち、福祉と地域づくりを連動させた暮らしの基盤づくりを推進する。また、時代に即した医療・福祉の拠点整備や診療所の維持により、地域医療を確保する。
- 地域の防災力を高めるため、消防団員の確保、自主防災活動への支援を推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
普段の生活の中で地域の助け合いができていると思う人の割合	44.5%	50.0%
消防団員数増	—	100人増

H27 事業例	協働推進事業 地域自治組織支援事業 地域医療拠点等整備事業 吉和診療所整備事業 吉和地域高齢者施設整備事業 自主防災活動推進事業 消防団入団促進事業 地域福祉計画推進事業
------------	--

女性の視点

「あなたのそこ！がすてき」ウーマンライフはつかいち

(1) しなやかな感性をいかして活躍

① 新たな発想によるまちの活性化と多様な働き方の支援

- 女性ならではの感性をいかし、新たな発想でまちを元気にする取組を応援する。
- 女性の多様な働き方を促すため、地域や商店街、住宅団地等における地域活動や多様な活躍の場づくりを推進する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
民営事業所従業員数（女性）	19,428 人 (H24)	20,000 人

H27 事業例	地域密着型ビジネス支援事業 起業創業支援事業 商店街等活性化事業 （仮称）地域創業・産業振興サポートセンター事業 新規ビジネス創出支援事業 多様な働き方への支援事業
------------	---

② 就活支援

- 女性の雇用と活躍の場を拡大するため、多様な働く場とのマッチングなど「就活」を支援する。

K P I（重要業績評価指標）	現状値 H26	目標値 H31
女性の就職・再就職セミナーへの参加人数（延べ人数）	-	60 人

H27 事業例	男女共同参画事業
------------	----------

(2) 仕事とくらしの両立支援

① 働く場での支援

- 男女共同参画を進め、「ワーク・ライフ・バランス」の推進に向け、働く場での支援を推進する。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 H26	目標値 H31
ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業数 (一般事業主行動計画策定状況)	74 社	82 社

H27 事業例	男女共同参画推進事業 ワーク・ライフ・バランス推進事業 男女共同参画事業
------------	--

② 働く環境整備

- 安心して子育てをしながら働けるよう子育て支援サービス体制の強化や、地域での子育て環境の整備を推進する。

K P I (重要業績評価指標)	現状値 H26	目標値 H31
保育園等での0歳から2歳の受け入れ児童数	947 人	1,537 人

H27 事業例	保育園整備事業 保育園管理運営事業 児童会管理運営事業
------------	-----------------------------------

第4章 「対話」を通じた総合戦略の検討

～廿日市市総合戦略検討会議報告～

○廿日市市総合戦略検討会議経緯

検討会議は、平成27年6月から9月の間に、5回にわたり開催しました。各回の概要は次のとおりです。検討内容については、次ページ以降にニュースレターとしてとりまとめました。

- 検討会議では、様々なワークショップ手法を用いた委員同士の「対話」から、大切な視点や多くの「原石」と呼ぶべきアイデアが出されました。
- 市民と多様な主体と行政が総合戦略を推進するため、基本目標に検討会議で出された言葉をいかしました。
- 最後に、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という思いを共有して会議を終えました。

第1回

平成27年
6月8日

今後の人口減少という現実を直視し、危機感を共有するため、地方創生について市から説明した上で、各委員が6つのグループに分かれ、「対話」を通じた意見交換を行いました。

「対話」は「廿日市市の未来について、今日話を聞いて思ったことや、日頃から感じていること」などをテーマとして、グループのメンバーを入れ替えながら3回行い、最後に印象に残ったフレーズやセリフを1人1枚の紙に書いてもらいました。

第2回

平成27年
7月1日

第1回で話し合った内容を踏まえ、参加者自身が関心のあることや感じたことをまとめ、第3回以降の分科会のテーマを決めました。

第3回

平成27年
7月21日

第2回で一人ひとりの思いから出てきた6つの分科会テーマ案をベースに、第3回では、事務局にて再整理した9つの分科会のテーマを掲示し、「掲示板会議」として参加者が思いを記入しながら対話を深めました。

第4回

平成27年
8月26日

第3回までに提出された様々な「原石（意見）」を整理した総合戦略骨子イメージを説明しました。

続いて、その骨子イメージについて、フィッシュボウル（金魚鉢）形式で検討を進めました。

第5回

平成27年
9月30日

総合戦略素案の説明後、参加者それぞれがこれまでの振り返り「やるべきこと」や「想い」についてワールドカフェ形式で対話を進めました。

最後に、参加者自らが「宣言」を書き、相互に署名することで意識の共有を図りました。

廿日市市の地方版総合戦略と人口ビジョンについて検討する「総合戦略検討会議」が開かれました。

■総合戦略検討会議とは・・・

将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が平成 26 年 11 月に施行されました。廿日市市においても、人口減少への対策を総合戦略として策定するため、様々な方の参画による総合戦略検討会議を設置し、検討を進めていきます。

■第 1 回総合戦略検討会議 開催概要

日時：平成 27 年 6 月 8 日 19:00～21:00

場所：市役所 7 階会議室

参加：検討会議委員 26 名（住民組織、経済団体、学識経験者、関係行政機関、専門分野（女性支援、子育て支援、まちづくり、農業など））



会場の様子

■座長挨拶概要 [広島修道大学山川肖美教授]

皆さん、結城登美雄さんという方をご存知でしょうか。地域にある資源を再発見し、その中で人と人が繋がりながら地域をより良くしようという「地元学」を提唱されていて、ご自身の実践から、よい地域には 7 つの条件があるとおっしゃっています。

1. よい仕事の間をつくること
2. よい居住環境を整えること
3. よい文化を作り共有すること
4. よい学びの間をつくること
5. よい仲間がいること
6. よい自然と風土を大切にすること
7. よい行政があること

まさに廿日市市はこれに当てはまりながら発展していくことができるまちです。総合戦略検討会議は、およそ 4 か月間で方向性をまとめていくと聞いています。4 か月間でこれら 7 つの実現までには至りませんが、実現に向かって何ができるか、何を強みとするか作戦を練る、そういう会議にしていきたいと思います。様々な立場や思いの方が集う作戦会議ですから、それぞれの立場や思いから、他の市町にはない作戦を積極的に提案してください。奇策や秘策も歓迎します。

また、もう一つお願いがあります。作戦を練ったからには逃げないでください。作戦会議のチームのみなさんには、これから先、練った作戦をもとに、その実現に向けて、それぞれ活躍していただくことになると思います。お一人お一人がそこまでの意志が持てる作戦会議を一緒に創っていきたいと願っております。

チーム廿日市は、今日スタートを迎えることができました。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

■第 1 回総合戦略検討会議の進め方

参加者が 6 つのグループに分かれ、「対話」を通じた意見交換を行いました。「対話」は以下の流れ・テーマで行い、最後に印象に残ったフレーズやセリフを 1 人 1 枚の紙に書いてもらいました。

対話の流れ

第 1 の対話
ホーム

第 2 の対話
旅に出よう

第 3 の対話
再びホームへ

対話のテーマ

廿日市市の未来について、今日の話を聞いて思ったことや、日頃から感じていることなど

■参加者が印象に残ったフレーズ・セリフのまとめ

■ 廿日市は日本の縮図

- ・廿日市も日本の縮図では。
- ・「日本の縮図」

■ よい職場づくりと新しい仕事づくり

- ・IT産業、インターネット環境が有れば、場所を選ばない。
- ・職場づくり
- ・働く女性のサポート
- ・企業は育休がとりにくい。行政はとれている。
- ・印象として、保育・子育てが（対話の）中心となっていた。
- ・仕事づくりも大切
- ・残業ゼロ

■ 買い物のこと、買い物弱者のこと

- ・スーパーがなくなっている
- ・買い物弱者対策
- ・ゆめタウン一極集中

- ・何故、地元を離れるか？何故、地元に戻ってきたか？この2点を掘り下げる事で、要因と対策が見えてくると考える。
- ・何で地域から離れて行くのか。
- ・何で離れていくのか
- ・大都市をみてみたい
- ・何故、人が離れるか？を考えた。

■ なぜ地元から離れるのかの分析

■ 廿日市を好きと言える愛着教育

- ・『廿日市が好き』と言える町に！！
- ・地域を好きになる、愛着。
- ・地元愛を育む学校教育
- ・「はつかいちを好きにさせる」ための勉強、機会を設ける。→きめ細かく小学校単位で
- ・廿日市以外に住んでいる人からは、住みやすい町という印象がある。
- ・（交通の利便性、文化遺産・自然、教育も魅力的（少人数制））
- ・廿日市の人々がもっと廿日市を知り、子供達に伝える努力が必要。
- ・廿日市市に住む人が、地元を愛し、地元を知る。小学生の時から『廿日市が好き』という勉強会を重ねていく。
- ・「廿日市」を考える学習（小学校）

- ・スポーツの強化

■ スポーツの強化

- ・廿日市各地域で独自の活動をされている方は多いが、それらが人口減の歯止めになるほどのキャパシティを持っていない。
- ・「廿日市が好きになる勉強会」
- ・「子供～大人まで廿日市について考える会」
- ・こどもから大人まで、市民全員が廿日市のことを考える時間をもち、積み重ねていくこと…これが大事なコト
- ・“声の届くまちははつかいち” どんなまちにしたいか、どんな声をだして頂く機会をつくるとよいと思います。

■ 廿日市について考え、語り合うネットワーク

■ ダウンシフトという考え方

- ・ダウンシフトの考えがユニークで面白かった

■ 住んでる田舎を好きになるしあわせ・“田舎再発見”

- ・田舎再発見（自然の豊かさを求めて来る人に対して）
- ・田舎は、とても住みやすい。
- ・特別なものはなくても、住んでる周りが好きになれたら幸せ。

- ・空き土地、空き家の有効利用
- ・住まい手による紳士協定

■ 住まい手による紳士協定と不動産の有効活用

■ 地域単位で考える～負や不便をプラスに

- ・佐伯・吉和・宮島、各地区における不便
- ・地域の負をプラス化
- ・中山間、団地の課題。
- ・宮島に保育園をつくる
- ・宮島に保育園を！！

■ 地域資源・歴史・観光資源の見直しと活用

- ・廿日市市内の観光地の見直し
- ・歴史、地域資源、地元の良いものを活用。

■ 市域全体での考察～一極集中を考える

- ・一極集中（佐伯、吉和→廿日市）
- ・廿日市市内地域で考えていく

■ 若い人は憧れで行動する。ゆえの子育てにやさしい環境づくり

- ・子育てに優しい環境づくり
- ・若い人の移動憧れで行動
- ・子供を作ることの大切さ
- ・子育て支援
- ・子供を育てられる環境
- ・育休制度
- ・待機児童（少ない）を売りに
- ・男性にも仕事以外の時間を

- ・廿日市は魅力的な資源は多いので、情報発信をうまくしていきたい。県外、市外の人がうらやましくなるまちづくり。
- ・いまある豊かさに気づくこと。いまある豊かさを発信すること。気づいた若い世代、受信した若い世代は、廿日市に住みたくなる、戻りたくなる。
- ・農、林、まちやは、鍵の1つ。
- ・人口減少は、出生率を気にするより、どうして転出していくか、どうして地元を離れていくか、その理由を調べることが大切である。

■ いまある豊かさに気づくこと、それを発信すること

「第2回総合戦略検討会議」を開催し、委員同士の対話を通じて分科会のテーマを考えました。

■第2回総合戦略検討会議

日時：平成27年7月1日 18:30～20:30 場所：市役所7階会議室

参加：検討会議委員24名（住民組織、経済団体、学識経験者、関係行政機関、専門分野（女性支援、子育て支援、まちづくり、農業など））

■会議の流れ

今回から事務局アドバイザーの広島修道大学ひろしま未来協創センター田坂先生に対話の進行をお願いしました。

第1回で話し合った内容（廿日市市の未来について日頃から感じていることなど）を踏まえ、参加者自身が関心のあることや感じたことをまとめ、次回以降の分科会のテーマを決めました。

①前回の振り返り



②2～3人で対話

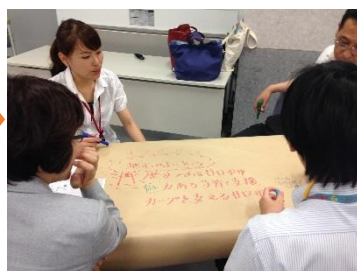


③4～5人で対話



前回のまとめを基に、少人数で対話を始め、全員の参加により検討を進めました。

④机を囲んで対話



⑤違う班への移動×2回

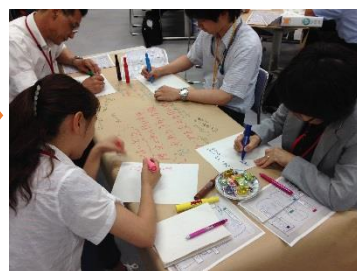


⑥最初の班に戻り共有



テーブルの上にクラフト紙を置き、対話の中で印象に残ったフレーズなどを書きとめました。違う班へ移動して対話を重ねるワールドカフェ形式により、様々な意見の共有を図りました。

⑦1人ずつ思いを記録



⑧内容別にグループづくり



⑨まとめ



一人ひとりの「思い」を書き出し、似た内容を書いた人同士がグループを作り、次回以降の分科会のベースができました。

■検討会議の結果（分科会のベース）

検討会議の結果、一人ひとりの「思い」から以下の6つの分科会案ができました。次回は、これらを整理した分科会で議論を深めます。

■強みを産業に結びつけよう

- ・廿日市の強み、地域資源をどのように産業に結びつけるか、産業化、しごと
- ・地域の強みを産業化（仕事場）

■観光地・自然を活用しよう

- ・廿日市の自然環境を強調したまちづくり、「ジオパーク」のようなもの
- ・はつかいちの魅力発見、隠れた穴場（観光地）を整備する
- ・廿日市市内で小旅行（観光地めぐり）、廿日市20名山、歴史ツアー、トレッキング

■暮らし・住まい方・生活

- ・そこそこの、ほどよい廿日市が好きといえる「人」づくり、住みやすいという「人」ネットワーク、田舎でもない、街でもないのに住みたくなる廿日市って？
- ・住まい方自慢
- ・生活が楽しめるまち

■高齢者・健康・コミュニティ

- ・コミュニティ形成（町内会）
- ・心と身体が健康でいられる、やすらぐまちづくり
- ・高齢者とのコミュニティ

■体験学習・高齢者の協力

- ・体験学習のできるまち→鮭学習、地域の人財を生かせ！、人と人のネットワーク（高齢者、子ども、女性）
- ・廿日市が好きといえる愛着教育（子ども、子育て）
- ・廿日市の魅力・地域の力を子どもが体験できるまち、シニアの力！
- ・〇〇ができる廿日市市（林業、農業、漁業など色々な体験が出来る廿日市市）
- ・中山間地の活性化（体験型、高齢者協力）
- ・まなぶまち廿日市！（農林水産、商工業を体験学習できる、子どもの頃に様々な実体験を通じて地域を知り、地域を好きになる）
- ・廿日市どこでもふるさと、廿日市語で廿日市の魅力発信（住むたのしさ、住みやすさを廿日市語で表せないかなあ）
- ・お嫁さんが楽しいまち

■子育て

- ・子供が定住する循環を作り出す（恋→結婚→子育て）
- ・子
- ・働きやすさ、暮らしやすさ、全ては子育てしやすいまちの視点
- ・市全体で子育てをする街を創る（様々な体験プログラム）
- ・廿日市を好きと言えるにはどうしたらいいか。若者がいかに子育てし働きやすいか。
- ・町全体で子育てができる廿日市市、循環型子育て支援
- ・「主婦（カープ女子、子育て環境）大好き廿日市市」、「けん玉の製作から遊ぶまで廿日市市」
- ・生活の質向上＝地域を挙げた学びを通じた新しい住民サービス
- ・住んでもらうために（長い目で）、農業体験を盛り込んだ教育（小・中・高）の見直し
- ・子どもの頃から農業・漁業の体験を増やす
- ・お嫁さんが好きなまち（つながり、子育て、住環境（自然など）、住んで良かったと思うまち）
- ・まちが子育て・教育するまち、ターゲットは子ども

■事務局アドバイザー、座長・職務代理コメント



【事務局アドバイザー田坂先生（広島修道大学ひろしま未来協創センター）】

〔議論の流れを整理したり活発な対話となるよう支援をお願いしました〕
今回、たくさんの言葉がでました。この内容を分科会のラベルとして整理し、第3回は自由に移動できる「テーマ別分科会」を行いたいと思います。ここから、鋭いキーワードが浮かび上がってきた時に、廿日市市の未来を鮮やかに描き出すことができと思っています。

【佐藤職務代理（㈱ハーストリープラス）】

今日の話の中で、「廿日市市はどういうところなんだろう」という平凡さに興味をそられました。ネガティブをポジティブに変える言い回しや、それやったら面白いよね、というのが見つかるヒントになった良い会でした。次回、「そこ面白い」ということが出てくるとエッジが立ったものになってくると思います。



【山川座長（広島修道大学）】

今日の対話を通して、私たちの廿日市には素敵な資源がたくさんあること、そのことを住んでいる人・関わっている人が実感できていることがよくわかりました。この廿日市の素敵なトコロを、どう表したらいいのか、廿日市固有の言葉で表したくてウズウズしています。言葉の選択を間違えると他のまちとの差別化ができません。廿日市のよさを、廿日市の言葉で紡いでいければと思います。

「第 3 回総合戦略検討会議」では、分科会テーマを 9 つに整理し、掲示板会議により対話を進めました。

■第 3 回総合戦略検討会議

日時：平成 27 年 7 月 21 日 19:00～21:00

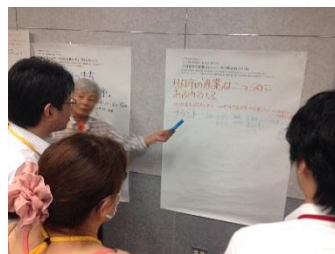
場所：市役所 7 階会議室

参加：検討会議委員 22 名（住民組織、経済団体、学識経験者、関係行政機関、専門分野（女性支援、子育て支援、まちづくり、農業など））

■対話を進める 9 つのテーマ

第 2 回で一人ひとりの思いから出てきた 6 つの分科会テーマ案をベースに、第 3 回では、アドバイザーの田坂先生を含む事務局にて再整理した次の 9 つの分科会を掲示し、「掲示板会議」として参加者が思いを記入しながら対話を深めました。今回は、この言葉を使って、草立てか文章で戦略案を提案する予定です。

分科会テーマ	参加者が掲示板に記入した主な内容
すべてを子育て視点で組み立て直す こどもを育てるまち・廿日市 循環型子育て支援／働きやすく、暮らしやすく、子育てしやすいまち。子育て世代の集うまち。	「その子は、あなたの子ではない」の文化／「ベビーカー優先」の道路がある／待機児童ゼロ／3 世代同居の促進（親元近居）／子育てインディケーター（指標づくり）／地元の名産を活用した食育／医療費フリー（中卒まで）／1 万人の子育てミーティング／子どもが生まれたら祝福メッセージが届く／小児救急 など
こどものときに、廿日市の魅力・地域の力を体験する 廿日市が好きと言える愛着教育 徹底的な小中高校教育の独自性改革／新教育ネットワーク（地域人財の活躍＝シニアの力）	親が廿日市の“良いところ”を語れるようにする／子ども廿日市親善大使／外で遊べる環境／廿日市の未来に思いをはせるような教育／地産地消、おいしく充実した給食／自分の育った環境を自分の子どもにも経験させたいと思わせる／けん玉教育 など
「学び」が地域を新しくする 体験学習のまち～ 「まなぶ廿日市」「できる廿日市」 圧倒的な数の体験プログラム～農業林業体験、鮭学習から商工業体験、けん玉（遊び）まで／体験型訪問による中山間地域の活性化～こどもも大人も体験する	季節ごとの体験（スキー、干潟、釣り、神楽、果物狩り）／宮島学習・教育（自然、文化、歴史、人、産業）／持続可能なプログラムを作る／仕事として報酬を得ることで、責任とクオリティを上げる／野菜の本当の味を知る／11 万 7000 人の「学びの日」制度 など
廿日市の産業を「見える」化する 廿日市の「産業」は ニュースにあふれている。 廿日市の産業・地域資源と市民を結びつける（意外と市民は地元のニュース（よさ）を知らない）／ウッドワン、カルビー、世界の廿日市、農林水産業、観光業、第三次産業が盛んな都市としての廿日市	意外と市民は地元のニュース（よさ）を知らない／地域中核企業への支援←すごい研究者がいる？！／ブランド化／廿日市で育った木で建築物をたてる、建築の地産地消／大人の工場見学・ナイトツアー・世界から就学旅行／「その道のプロ」はおもしろい！／子どもたちにも会社参観日／スキースノボ合宿 など



分科会テーマ	参加者が掲示板に記入した主な内容
「産業」にも戦略を！ 強みを伸ばす「産業周辺産業」振興（つなぎ方・磨き方） 第三次産業（サービス業・観光業・宿泊サービス）、産業と産業をつなぐ「産業のかけ算」（林業から、里山関連産業へ／宮島の観光業を市全域へ）／今ある小さな産業（であって）も、磨いて光らせる（そして、世界へ！）	宮島のおみやげの8割を地元産にする（宮島の旅館の食事の食材も）／（地元材＋外材）×木材業／カキを加工して海外に！／エコツアー（海・山・里）／ICT・オープンデータ／外国人（バックパッカー）に泊まってもらう（ゲストハウス、民泊）／外食場所を増やす／英語を話そう／半林半 X（エックス）／森の学校／泊まれるスキー／異業種お見合い など
公的な統計用語「産業」から、 生計のためにすることのすべて「しごと」へ。 地域資源をしごとに／強みをしごとに／しごと場づくり（テレワーク・復業・小商い・地域ニッチ）	地域の野菜等をつなぎ、多くの製品を産み出す／四国上勝町的ビジネス／女性の起業（パン、カフェ、雑貨etc）／小商い（小さな仕事を組み合わせて収入を確保する）日本一を目指す／将来のITエンジニア、クリエイターを育てる／ベンチャー支援／資源をいかせる「しごと」／地元牛乳アイスクリームショップ など
お嫁さんが楽しいまち ウーマンライフ・HATSUKAICHI お嫁さん・主婦・カープ女子・子育てママ～つながり（ネットワーク）の創出	女性どうしが日本一つながりやすい＝“ワイワイ・ガヤガヤ”できる街／コレできる！を集めたチャレンジカフェ／イクボス・イクメン男子の多い町／仕事も楽しむ・子育ても楽しい／おとうさん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族の支えがあったらいいね など
そこそこの廿日市 暮らしを楽しむまち 廿日市を好きと言える環境を／住まいかた自慢／住みたくなる廿日市／廿日市のことばで魅力発信	広島駅・中心部まで30分、街のようで街すぎない（そこそこ）／自然もあるけど田舎すぎない（そこそこ）／海もあれば、数分車で走れば山・畑／だけど、世界遺産もある（そこそこ＝“good”）／心のゆとりをもらえる環境づくり（山・海・まちのバランス） など
はつかいちの魅力発見 市民が楽しむ市内旅行～はつかいちピクニック！ 自然環境を強調するまちの味わいかた／隠れた観光資源の発掘（「地元学」）	廿日市20名山×瀬戸内ビュー／はつかいち版 farm to table／廿日市一周トレイルラン／自然史博物館（広島県にはない）／宮島七浦めぐり／夜景スポット、デートスポット／桜がきれい、海（宮島）から見る廿日市／ツアープログラムがお金を生むしくみ作り／食＋旅＋歴史 など

■事務局アドバイザー、座長・職務代理コメント

【事務局アドバイザー田坂先生（広島修道大学ひろしま未来協創センター）】

「掲示板会議」は、誰かと誰かが向き合うのではなく、全員が同じ方向を向いて対話をします。この壁の向こうに未来を見えています。同じ方向を向き、その向こう側に何かを見出していきたいと思います。



【佐藤職務代理（㈱ハーストリープラス）】

今回も様々な「深めるワード」が出てきました。今日の深め方は面白いと思いました。他県のある地域では、空き家に芸術家・作家を誘致して創作活動を支援、ギャラリーを開き全国から集客するマーケットを開催して賑わいをつくっていました。身近な事例からヒントを得て廿日市に置き換えて考えると良いと思います。次回もどんな意見がでるか楽しみです。



【山川座長（広島修道大学）】

今回の会議を通して大切にしているのは対話です。協働を掲げる廿日市だからこそ、対話という手法を取り入れる意義は大きいと思っています。対話を通して、私の言葉を私たちの言葉に換えたときに、廿日市の魅力を廿日市の言葉で発することができし、それが総合戦略の柱になればいいなとも思っています。

「第 4 回総合戦略検討会議」では、これまでの検討内容を整理し、フィッシュボウル形式で意見交換しました。

■第 4 回総合戦略検討会議

日時：平成 27 年 8 月 26 日 18:30～20:30

場所：あいプラザ 3 階講座室

参加：検討会議委員 22 名（住民組織、経済団体、学識経験者、関係行政機関、専門分野（女性支援、子育て支援、農業など））

■検討会議の進め方

第 4 回では、最初に、これまでの検討会議で出された様々な「原石（意見）」を整理した総合戦略骨子イメージを説明しました。続いて、その骨子イメージについて、代表者が中央の机で意見交換を行い（他の参加者は意見交換内容を聞く）、その後各班に分かれ、班ごとに意見交換を行い、再度、代表者が中心のテーブルに集まり、意見交換を行う形式（フィッシュボウル（金魚鉢）形式）で検討を進めました。

①進め方の説明



②代表者による意見交換



③各班での意見交換



④代表者による報告



■総合戦略骨子イメージ（抜粋）

■基本目標①【ひと】

～若い世代の

結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

- 子どもを産み育てたいという希望がかなう
- 子どもも保護者も安心して楽しく子育て
- 子育ての心配を安心して変えていくまち
- 「つなげる・つながる」で安心の子育て
- 明るいまちづくりは女性のピークパーチクから
- 女性同士が日本一つながりやすい＝“ワイワイ・ガヤガヤ”できる街を目指す
- 仕事や活動をしながら安心して子育て
- 働きやすい、通いやすい、暮らしやすい

■基本目標②【しごと】

～しごとの創出～

- はつかいちの「産業」はニュースにあふれている
- 体験から学ぶ感動のまち
- 廿日市のしくみ学べるプログラム
- 地域の魅力 3 点セット（食事・食材、買い物、地域の交流資源）の開発、磨き上げ＋人
- 地域資源をいかし、つなぐまち
- 女性がいきいき自分らしく暮らせるまち（女性の感性・労働力をいかす）
- 働きたい人が働ける「ひと」と「しごと」とつなぐまち
- 地域のしごと「半農半 X、半林半 X」ができるまち

■基本目標③【まち】

～地域づくり、地域と地域の連携～

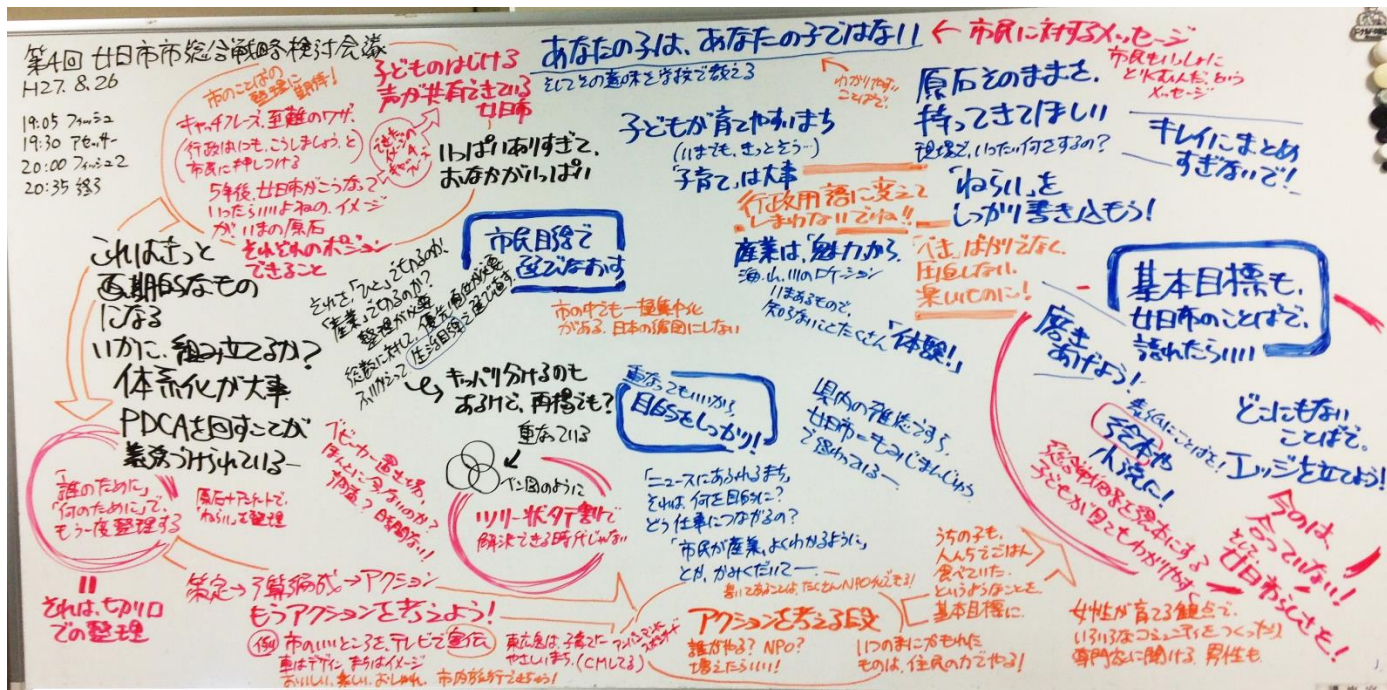
- 体験学習のまち「まなぶ廿日市」「できる廿日市」
- はつかいちが「好き」と言える「ふるさと教育」
- 市民が楽しむ市民旅行～はつかいちピクニック
- 地域による地域のための地域維持への支援
- 住み続けられるまち
- 空き〇〇の活用

■基本目標④【ひと】

～新しいひとの流れをつくる～

- 住みたくなるちようどいい！まち
- 子育て家族を応援するまち
- 暮らしを楽しむまち

■参加者からの意見（田坂先生によるホワイトボードでのまとめ内容）



【書かれているキーワード】

- ・5年後、廿日市がこうなっていたら良いよね、というイメージが今の原石（意見）。それぞれのポジションでできること。
- ・これはきっと画期的なものになる。いかに組み立てるか、体系化が大事。「ひと」「しごと」など市民目線で選べるおとした整理。分けられなければ再掲でも良いのでは。
- ・「あなたの子は、あなたの子ではない」というような市民に対するメッセージ、市民も一緒に取り組むというメッセージを分かりやすい言葉で表現したい。
- ・基本目標も廿日市の言葉で語れたらよい。どこにもない言葉でエッジを立てよう。
- ・きれいにまとめすぎず、原石そのままを持ってきて欲しい。行政用語に変えてしまわない。
- ・「誰のために」「何のために」でもう一度整理したい。
- ・誰がみてもわかるように総合戦略を絵本や小説にするのはどうか。
- ・アクションを考える段階。誰がやるか。戦略に漏れたものは住民の力でやる。

■事務局アドバイザー、座長・職務代理コメント



【事務局アドバイザー田坂先生（広島修道大学ひろしま未来協創センター）】

戦略の骨子をたたき台に、原石の言葉との再度の照らし合わせをしました。最終的な戦略策定では、選択に漏れる言葉もあるでしょう。ですが今日の会議では、「漏れたものは市民がやります」という力強い発言もありました。先駆性のあるものを市民が先んじて行うことで、つくられる未来もあります。次回、最終回、どこから手をつけたらその戦略が市に根付くか、アクションとアクターを議論できると良いと思います。

【佐藤職務代理（株）ハーストリープラス】

グループの中では「CMを作ったらどうか」という発言ができました。CMを作ろうと考えると、廿日市の良いところを引っ張り出すことができ、また市民がやりたいこと、やるべき人を結びつけることができるように感じました。今日、各班の報告を聞きながら、同じような内容で、イメージとして共通項が導かれたのかなと思います。



【山川座長（広島修道大学）】

前回までは原石を出し合う会でしたが、今回は原石を戦略に変えていくための橋渡しを行うという難しい会だったと思います。今回の皆様のご意見では、戦略の言葉を行政用語に変えてしまわない、市民に届く言葉で戦略が作りたいということは一致していたと思います。住民も行政も当事者意識と愛着の拠り所となるような戦略になると良いと思います。



“戦略デビュー！”として、戦略に取り組む想いを 「対話」により共有し「宣言」として発表しました。

■第5回総合戦略検討会議

日時：平成 27 年 9 月 30 日
19:00～21:00

場所：あいプラザ 3 階講座室

参加：検討会議委員 18 名
(住民組織、経済団体、学
識経験者、関係行政機
関、専門分野(女性支援、
子育て支援、農業など))

■検討会議の進め方

総合戦略(素案)の説明後、“戦略デビュー”として、参加者それぞれがこれまでを振り返り「やるべきこと」や「想い」についてワールドカフェ形式(グループを変えながら意見交換を行い、意見を共有する形式)で対話を進めました。

最後に、参加者自らが「宣言」を書き、相互に署名することで意識の共有を図り(署名ワーク)壁面に貼り出しました。

張り出した「宣言」を眺め、それぞれの「宣言」に込めた想いを発表しました。

■検討会議の様子

①小グループでの対話



②席移動→意見の共有



③宣言記入、署名ワーク



④リレーコメント



■総合戦略骨子イメージ(案)

施策体系

基本目標 1

はつかいちの「産業」はニュースにあふれてる!!!
～そこ！に着目するはつかいち～

- ①コレできる！新しい仕事のカタチ発掘
- ②お宝ザクザクはつかいち
- ③拡散希望！見どころ満載はつかいち
- ④新たな「人・モノ・コト」を開拓する

基本目標 2

住みたくなる！ちょうどいいまち
～そこ！そこ！のはつかいち～
意外と知らない、住みたい魅力いっぱいのもち

- ①暮らしを楽しむ魅力いっぱいのもち
- ②ウェルカムはつかいち ～新たな人を呼び込む～

基本目標 3

子育て世代に選ばれ続ける 「そこ！」が大事
子ども達、みんなはつかいちの子～みんなで子育て～
子どものはじける笑顔を共有するはつかいち

- ①子育ての心配を安心に変える
- ②まち全体で子どもをたくましく育てる

基本目標 4

「そこ！が好き」はつかいち
～はつかいちの心を育む～

- ①市民が楽しむ市内旅行 ～はつかいちピクニック！～
- ②住みたい！をかなえる
- ③いつまでも安心して暮らせるまちをつくる

女性の視点 再掲

「あなたのそこ！がすてき」
ウーマンライフはつかいち

- ①しなやかな感性を生かして活躍
- ②仕事と☆☆の両立支援

■参加者の宣言内容



【宣言】

- ・キーワードは“小商い”
- ・やるなら、暮らしを楽しむ魅力いっぱいのもち(新たに取り組むトマト作り、毎日取り組んでいるかぎ針あみ)
- ・「大人の工場見学」が始まりますように！！
- ・キーワードは「市民が廿日市を知る」
- ・地元の名所、宮島観光にプラスα。楽しい廿日市ライフを一緒に楽しむ。
- ・キーワードは観光業＋農林水産
- ・学生を連れて遊びに来る
- ・行政のお裾分けします
- ・廿日市 20 名山ができれば必ず登る。
- ・廿日市名山周遊トレイルラン
- ・やってみたい“はつかいちピクニック”
- ・ご指名下さいネ！
- ・自然体験しませんか？みんなで遊びましょ！
- ・子ども、子育て、自然体験にかかわることやります。あと、ネットワークづくり。
- ・けんだま教育をやりたいな
- ・近くの幸せを大切にします。
- ・イクボス、イクメンの多い職場にします。
- ・やるなら女性の視点(目標1～4を女性の視点・感性で楽しく、ウーマンライフはつかいち支援)
- ・この場に続く、HATSUKAICHI Do Tank(ドウタンク)を結成。5年後にはユネスコの LEARNING CITIES(ラーニングシティズ)に認定される。
- ・楽しいこと、楽しめることが廿日市創生に大事。
- ・キーワードは「イキイキ！」
- ・あるひとの思いつきが実現できるような人と人とのマッチング
- ・キーワードはシニア
- ・やるなら体験学習

■事務局アドバイザー、座長・職務代理コメント



【事務局アドバイザー田坂先生（広島修道大学ひろしま未来協創センター）】
戦略を作ることがゴールではなく、その先、戦略を使っていく段階の話をしました。市民が市民を吸着し、引っ張り上げ、誘い込むようなまちになると、まちが人を魅力的にし、さらに人が吸着されていきます。今回、戦略にもとづいて、市民側から見た「戦術」とも言うべき 24 枚の重要な突破口が出されました。我々には、こういうものを編み出す力があると実感できたことが成果です。



【佐藤職務代理（株）ハーストリープラス】
今回の 5 回の会議の中で、だんだん皆で仲良くなってきました。距離が近づいて共感する仲間が増えることが一番響く事で、コミュニティができて上がります。今回、参加者だけでなく、その周りにいる人も含め、何十名、何百名ものすごいコミュニティができて上がっていったと実感しました。共に創って共に動き出す廿日市市になれば良いと思います。



【山川座長（広島修道大学）】
全 5 回、お疲れ様でした。非常によいコミュニティをつくる出会いになりました。これが、今日で終わるという事が一番の心残りです。また、次世代につなぐためにも、子ども達の姿が足りていないと思いますので、今後、子ども達を巻き込み、多様な人を巻き込みながら、このようなコミュニティを続けていければと思いました。

参考資料

〇廿日市市総合戦略検討会議設置要綱

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号。以下「法」という。）に基づく廿日市市総合戦略（以下「総合戦略」という。）の策定に関し、まち・ひと・しごと創生（法第1条に規定するまち・ひと・しごと創生をいう。以下同じ。）を効果的かつ効率的に推進していくために必要な事項について審議するため、廿日市市総合戦略検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、まち・ひと・しごと創生を効果的かつ効率的に推進していくために総合戦略に示すべき方向性や具体案等について調査及び審議を行うとともに、市長に意見を述べることができる。

(組織)

第3条 検討会議は、委員30人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 地域自治組織の関係者
- (2) 産業界における団体に所属する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 教育機関に所属する者
- (5) 金融機関に所属する者
- (6) 労働団体に所属する者
- (7) その他必要と認める者

3 委員の任期は、平成27年6月1日から総合戦略策定の日までとする。

4 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長)

第4条 検討会議に座長を置く。

2 座長は、委員のうちから市長が指名する。

3 座長は、会務を総理し、会議を代表する。

4 座長に事故があるときは、あらかじめ座長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会議は、座長が招集する。

2 検討会議は、委員の総数の過半数が出席しなければ開くことができない。

(専門部会)

第6条 座長が必要と認めるときは、検討会議に専門部会を設置することができる。

2 専門部会の委員は、座長が指名する。

3 専門部会は、座長が必要とする事項について調査研究し、座長に報告する。

(庶務)

第7条 検討会議の庶務は、分権政策部経営政策課において処理する。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この告示は、平成27年5月1日から施行する。

○廿日市市総合戦略検討会議委員名簿（敬称略、五十音順）

氏 名	所属団体等	委員区分
市村 匠	県立広島大学	学識
上野 隆一郎	宮島観光協会	産業
大島 久典	廿日市市域商工会連絡協議会	産業
大野 宣江	佐伯地域コミュニティ推進団体連絡協議会	地域
岡 真由美	農業従事者	専門
小川 徹	廿日市市町内会連合会	地域
奥迫 輝昭	広島県（西部農林水産事務所）	行政（県）
川崎 康司	コミュニティよしわ	地域
木村 聡子	くじまの森	専門
木村 洋	広島県（地域政策局地域力創造課）	行政（県）
國村 充弘	廿日市金融懇談会	金融
孝野 真也	廿日市市商工会議所	産業
境 孝士	廿日市公共職業安定所	行政（国）
佐藤 緑	株式会社ハーストリープラス	専門【職務代理者】
谷口 薫	山陽女子短期大学	学識
天満 類子	広島工業大学	学識
難波 貢司	経済産業省中国経済産業局	行政(国)
西 活哉	大野町漁業協同組合	産業
野田 浩二	佐伯森林組合	産業
平野 克博	廿日市市労働者協議会	労働
福坂 隆章	佐伯中央農業協同組合	産業
文理 一男	大野区長連合会	地域
松本 穰	宮島総代会	地域
山川 肖美	広島修道大学	学識【座長】
吉本 卓生	特定非営利活動法人キッズNPO	専門
渡邊 智恵	日赤広島看護大学	学識

事務局アドバイザー

田坂 逸朗